

Aging Couple の性生活の実態

安本 亮二¹, 河野 学¹, 坂本 信宜¹鞍作 克之², 田中 智章², 仲谷 達也²¹大阪市立十三市民病院泌尿器科, ²大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学

QUESTIONNAIRE ON SEXUAL QUALITY OF LIFE IN AGING COUPLES

Ryoji YASUMOTO¹, Manabu KAWANO¹, Nobuyoshi SAKAMOTO¹,
Katsuyuki KURATUKURI², Tomoaki TANAKA² and Tatuya NAKATANI²¹The Department of Urology, Osaka City Juso Hospital²The Department of Urology, Osaka City University Graduate School of Medicine

A questionnaire study was conducted on sexual life such as intercourse frequency, libido and erectile function and degree of satisfaction of sexual life in aging couples. Half of them had sexual intercourse and satisfaction of life. According to multivariate analysis using stiffness of penis at erection, erection maintained, and difficulty of maintenance of erection state, there was a significant relationship between satisfaction of sexual life and frequency of erection maintained or difficulty of maintenance of erection state, and also between confidence on erection and difficulty of maintenance of erection state. These values became lower because of aging. We concluded that sexual communication was needed in the life of aging couples, and an urologist should have a role in consulting on aging life.

(Hinyokika Kiyo 51 : 595-598, 2005)

Key words : Aging couple, Questionnaire, Sexual life, Erectile function, Multivariate analysis

緒 言

加齢とともに男性性機能は低下していくことが知られている。そのため、高齢者夫婦においても性生活の頻度が減少し、生活の潤いがなくなっているとも言われている^{1,2)}。

このたび、施設入居者の性生活の調査を行いその実態を報告するとともに、男性性機能の自信度や満足度に国際勃起スコア IIEF5 の各項目がどのように関与しているか多変量解析にて検討を行ったので報告する。

対 象 と 方 法

1. 施設入居者の性生活の実態

老人ホーム入居者夫婦10組に性交頻度、性欲、勃起機能、性生活の満足度や潤い度、勃起障害 (ED) 治療に対する希望などをアンケート調査した。男性の年齢は66歳から78歳、平均74歳で、女性の年齢は66歳から77歳、平均72歳であった。これら夫婦のアンケート内容を比較するために、独居入所男性10名と独居女性6名にも同様のアンケートを行った。なお、使用したアンケートは日本性機能学会誌 IMPOTENCE に掲載されているものを用いた^{3,4)}。

2. IIEF5 を用い男性性機能の自信度や満足度にかかわる因子の検討

ED を主訴に受診した95名の IIEF5 データを用いて、自信度や満足度を従属変数とし、それ以外の陰茎の硬さ、勃起維持の頻度、維持の困難さを説明変数として、JSTAT を用いて変数減数法による多変量解析を行い、従属変数に関係する説明変数の項目を調べた。

さらに49歳以下、50歳から59歳、60歳から69歳、70歳以上の4群に分け、自信度や満足度の年齢別な割合を調べるとともに、陰茎の硬さ、勃起維持の頻度、維持の困難さの割合を調べた。

結 果

1. 施設入居者の性生活の実態 (Table 1)

男性について調べた結果、夫婦生活者では月に1～2回が2名、月に1回未満が3名と半数と性交は行われていた。一方、独居男性についてみると2名に性行為の実態があった。性欲についてみると、性的な絵や映画をみてやや興奮するとしたものが、夫婦生活者で4名であったのに対し独居男性でも3名にみられ、きわめて興奮すると答えた独居男性も1名あった。勃起機能については、セックスやマスターベーションで陰茎があまり硬くならないかまったく硬くならないと答えた症例が夫婦生活者で8名、独居男性で8名認められた。また、膣内挿入について調べると、夫婦生活者の3名にやや不十分ながら挿入可との答えがあった。

Table 1. 高齢者の生活や性生活に関する質問の結果

質問項目	夫婦生活男性 (n=10)	独居男性 (n=10)	夫婦生活女性 (n=10)	独居女性 (n=6)
性交頻度				
月に1回未満	3	0	2	0
月に1-2回	2	1	3	0
週1-2回	0	1	0	0
性欲				
性的な絵や映画をみてやや興奮する	4	3	3	1
性的な絵や映画をみてきわめて興奮する	0	1	0	0
勃起機能(陰茎硬度)				
全く硬くならない	2	3		
陰茎があまり硬くならない	6	5		
陰茎が時々硬くなる	1	0		
2回に1回硬くなる	0	1		
しばしば硬くなる	1	1		
勃起機能(持続性)				
非常に不十分	3	3		
かなり不十分	4	2		
不十分	1	2		
やや不十分	1	0		
だいたい充分	1	3		
きわめて充分	0	0		
性生活の満足度				
非常に不満	1	3	1	0
かなり不満	2	2	1	0
やや不満	2	2	1	1
満足	4	1	7	6
かなり満足	1	0	0	0
きわめて満足	0	0	0	0
生活の潤い度				
まったく潤わない	2	5	2	0
あまり潤わない	4	3	4	5
やや潤っている	2	1	3	1
潤っている	2	1	0	1
かなり潤っている	0	0	1	0
きわめて潤っている	0	0	0	0

勃起持続時間についてみると、夫婦生活者のうち9例にやや不十分またはそれより悪いとの回答を得た。早朝勃起に気づく割合は、夫婦生活者では3名、独居男性では4名であった。しかしながら、性生活の満足度や潤い度についてみると、現在の性生活を満足していると答えた症例は5名おり、性生活により生活の潤いがやや潤っている以上と答えた症例が4名いた。ED治療に対する希望として勃起の状態を良くしたいですかとの質問には6名がはいと答えていたが、その方法としては食事が3名、ED治療薬希望は1名であった。

一方、パートナーである女性側への質問では、性欲として、性的な絵や映画をみてやや興奮するとしたものが、夫婦生活者で3名であったのに対し独居女性で

は1名であった。膣の湿潤については夫婦生活者や独居女性ともにあまり濡れないかまったく濡れないとの回答が見られた。セックスを苦痛なく行いたいのですか？との質問に対しては4名にその希望があった。セックスに対しての意識調査項目では、女性としてのほこりが3名、体調の確認が1名、ご主人の要求に比べて2名であった。性生活の満足度や潤い度について7名が満足していると答え、残りはやや不満、不満、非常に不満が各1名ずつであった。性生活が生活にもたらず潤い度についてみると、1例を除き9例はやや潤っている、またはそれより悪いとの回答であった。男性パートナーに対してのED治療薬に対する希望はなかった。

2. 男性性機能の自信度や満足度にかかわる因子とし

Table 2. 年齢別に見た性交満足度, 勃起維持の自信度, 陰茎硬度, 維持硬度, 勃起維持に困難さの IIEF5 を用いた解析

年齢	性交満足度		勃起維持の自信度		陰茎硬度		維持硬度		勃起維持の困難さ	
	平均値	不満足の数	平均値	自信なさの数	平均値	不満足の数	平均値	自信なさの数	平均値	自信なさの数
49歳以下	1.50	63	1.69	41	2.44	28	1.75	47	1.56	69
50-59歳	1.75	45	1.50	50	1.90	35	1.60	55	1.70	45
60-69歳	1.79	50	1.75	38	2.04	38	1.67	42	1.83	54
70歳以上	1.11	74	1.68	58	1.53	58	1.05	74	1.56	84

て IIEF5 を用いた検討

ED を主訴に受診した95名のデータを用いて, 自信度や満足度を従属変数とし, それ以外の陰茎の硬さ, 勃起維持の頻度, 維持の困難さを説明変数として, 変数減数法による多変量解析を行った結果, 性交の満足度については勃起維持の頻度と維持困難さの項目が強い関係を示し, 勃起維持の自信度については, 勃起維持困難さが一番強く関係していた。

年齢別比較のため, 49歳以下, 50から59歳, 60から69歳, 70歳以上の4群に分け調べたところ, Table 2 に示すように自信度のなさは加齢とともに増加し, 性交の不満足度も40歳以下で増加を示し, 加齢とともに再び上昇を示す2峰性を示していた。その要因を調べるため, 勃起維持の陰茎の硬さ, 勃起維持の頻度, 維持の困難さの割合を年齢別に調査してみた結果, 満足度の低下よりも自信度の低下度が高い40歳以下では維持困難さを示す割合が一番高く, 満足度の低下や自信度の低下も年齢が経つにつれて高くなるのは, 加齢による維持困難さ以外に, 勃起維持の頻度や陰茎の硬度の問題が関係しているものと思われた。

考 察

高齢者社会が来ている本邦において性生活のアンケート調査はほとんど行われておらず, その実態を把握することは難しい。多くは病気や治療に伴ない生じた生活の質の変化, 性生活の問題などを調べられているのが現状である⁵⁻⁷⁾。今回は特殊で限られたコミュニティであるが, 一般の高齢者に近い老人ホームでの調査を行った。

その結果, 熊本や荒木が報告しているのと同様に^{1,2)}, 高齢者でも約半数の夫婦が性生活を送りながら暮らしている実態が判った。その男性の場合での性生活の満足度や潤い度についてみると, 現在の性生活を満足している以上と答えた症例は5名で, 性生活により生活の潤いがやや潤っている以上と答えた症例が4名見られた。このことは, 男性において性生活そのものが生活の潤いの一部であることを示しているものと思われた。

勃起機能については, セックスやマスターベーションで陰茎があまり硬くならないかまったく硬くならな

いと答えた症例が夫婦生活者で8名, 独居男性で8名認められ, 夫婦生活者において膣内挿入について調べると, 夫婦生活者の3名にやや不十分ながら挿入可との答えがあった。勃起持続時間についてみると, 夫婦生活者のうち9例にやや不十分またはそれより悪いとの回答を得た。ED 治療に対する希望として勃起の状態を良くしたいですかとの質問には6名がはいと答えていたが, その方法としては食事が3名, ED 治療薬希望は1名であった。高齢者において, 陰茎の勃起機能低下が性生活の満足度の低下と自信度の低下につながることは, 今回の IIEF5 の検討でも証明された。特に性生活の満足度の低下や自信度の低下の要因には維持困難さ以外に, 勃起維持の頻度や陰茎の硬度の問題が関係していた。一般にそれらの改善には phosphodiesterase type 5 inhibitor などの有用性が知られているが⁸⁾, 今回のアンケートの結果から, 高齢夫婦において最新の ED の治療法が知られていないと推察され, 今後の啓蒙活動が重要と思われた。

一方, 女性側からみたアンケートの結果, 性生活の満足度や潤い度について7名が満足していると答え, 残りはやや不満, 不満, 非常に不満が各1名ずつであった。性生活が生活にもたらす潤い度についてみると, 1例を除き9例はやや潤っているまたはそれより悪いとの答えであった。これは女性の場合, 生活の潤いに関する要因に性生活はあまり大きく関与していないからと推察された。しかしながら, 膣の湿潤については夫婦生活者や独居女性ともにあまり濡れないかまったく濡れないとの回答があり, セックスを苦痛なく行いたいですか?との質問に対しては4名にその希望があった点より考えると, 身体的にも膣湿潤などを図りながらの性行為方法の要望も潜在的にあるのではないかと推察された。このような身体的な問題は荒木も高齢者夫婦の生活面で大切であると唱えている²⁾。

夫婦が高齢に成っていく時の生活コミュニケーションに, 性行為コミュニケーションも必要と考えられるが, そのためのより良い方法を泌尿器科医も教示していく役割があるのではないかと考えている。

結 語

老人ホーム入居者夫婦に性交頻度, 性欲, 勃起機

能, 性生活の満足度や潤い度, 勃起障害ED治療に対する希望などをアンケート調査した。その結果, 半数のカップルで性交を認め, 現在の性生活を満足していた。しかも, 性生活により生活の潤いがあった。また, 勃起に関する自信度や満足度を陰茎の硬さ, 勃起維持の頻度, 維持の困難さを用いた多変量解析を行った。その結果, 性交の満足度については勃起維持の頻度と維持困難さが, 勃起維持の自信度については, 勃起維持困難さが一番強く関係し, いずれも加齢に伴い低下していた。高齢夫婦の生活コミュニケーションに, 性行為コミュニケーションも必要で, そのためのより良い方法を泌尿器科医も教示していく役割があるのではないかと考えられた。

本論文の要旨は第54回日本泌尿器科学会中部総会(2004年11月, 大阪)にて発表した。

文 献

- 1) 熊本悦明: 男はいつまで男たりうるか—中高年男性の性を考える— 産婦の世界 **51**: 211-228, 2000
- 2) 荒木乳根子: 中高年のセクシュアリティ—男女

のパートナーシップの現状について (<http://www.medical-tribune.co.jp/2000-6-25/6ss3.htm> より引用), 2000

- 3) 佐藤嘉一, 堀田浩貴, 熊本悦明, ほか: 加齢と性功能. *IMPOTENCE* **10**: 273-280, 1995
- 4) 竹内佐智恵, 貞廣莊太郎: 大腸癌手術の女性の性に与える影響. *IMPOTENCE* **12**: 7-15, 1997
- 5) Arrington R, Cofrancesco J and Wu AW: Questionnaires to measure sexual quality of life. *Qual Life Res* **13**: 1643-1658, 2004
- 6) Mannaerts GH, Schijven MP, Hendriks A, et al.: Urologic and sexual morbidity following multimodality treatment for locally advanced primary and locally recurrent rectal cancer. *Eur J Surg Oncol* **27**: 265-272, 2001
- 7) Namiki S, Tochigi T, Kuwahara M, et al.: Recovery of health related quality of life after radical prostatectomy in Japanese men: a longitudinal study. *Int J Urol* **11**: 742-749, 2004
- 8) 小谷俊一: ED 治療の最前線. ED と不妊治療の最前線. 郡 健二郎・菅沼信彦編, 第1版, pp 74-93, 昭和堂, 京都, 2004

(Received on May 13, 2005)
(Accepted on May 26, 2005)